第二節　第三十九師團の狀況

第一、中支より滿洲への轉進及海龍周邊に於ける配備完了迄

一、轉進狀況

イ、師團は五月上旬應城周邊に集結を完了し五月十二日五個梯團を以て孝感を出發、京漢線に沿ひ開封に向ひ前進す。砲兵部隊の全火砲及輜重部隊の輜重車約半數は汽車輸送によりたり。一馬匹を漢口に殘置せしめられたるに依る。但し不足馬匹は新鄉に於て補充せられたり）。

六月初旬頃より逐次開封に集結を完了し到着部隊より汽車輸送にて瀋洲に向ひ六月中旬頃より海龍周邊、四平、公主嶺、開源、西安に到着し概ね七月初旬を以て輸送を終了す。

2、第三方面軍司令官の命により參謀は五月十二日應城出發、自動車にて奉天に向ひ北上を開始し師團長は同月二十日頃陸路北上し夫々五月二十四日、五日頃第三方面軍司令部に到着し直に海龍周邊

0510

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

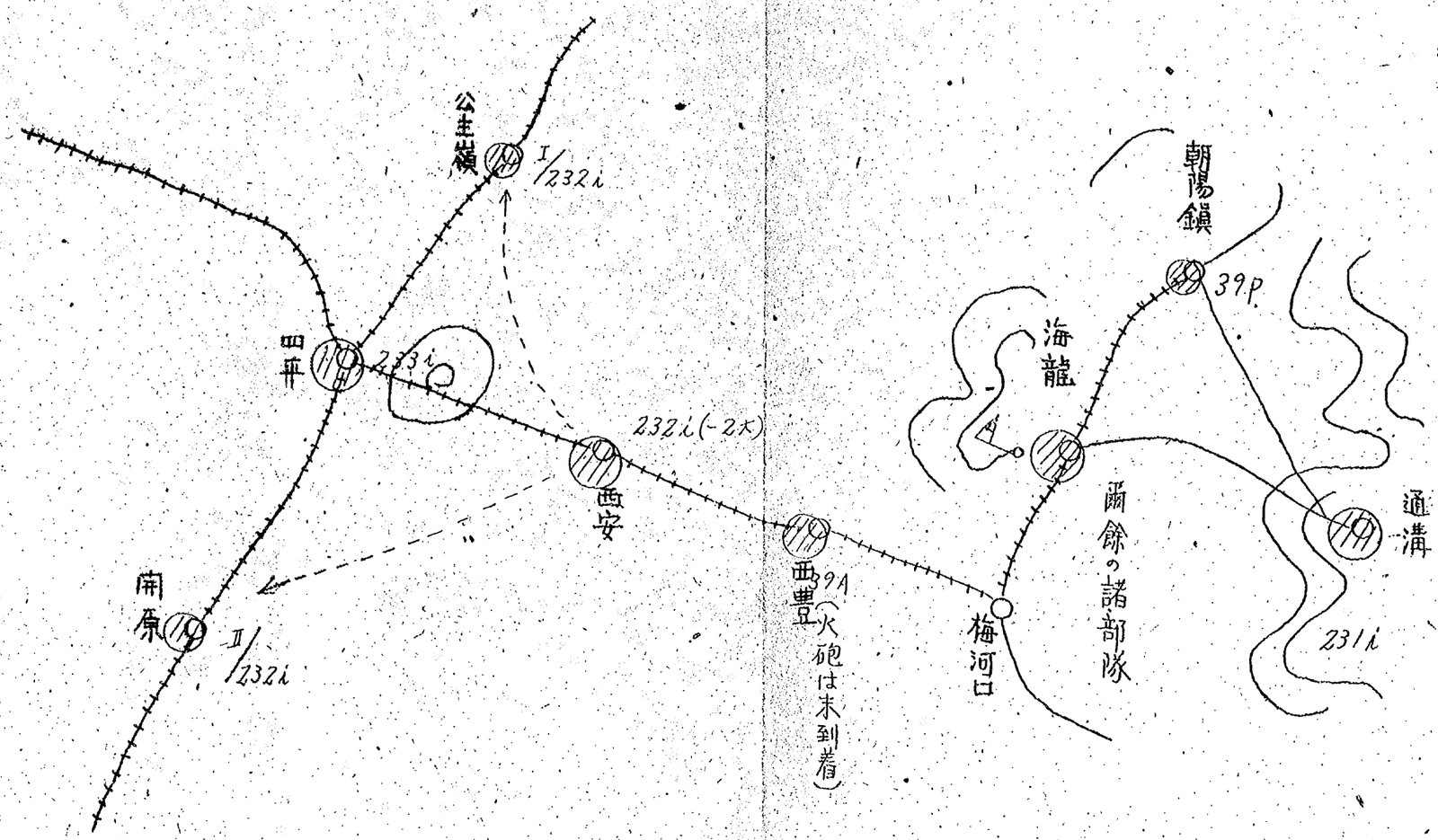
の地形を偵察す。其の結果海蘭附近の陣地編成は困難にして通溝附近に後退すべきを具申す。

3. 師團は第三方面軍司令官の直轄部隊として左記第一圖の如く配備す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十九師團配備要圖（至南戰迄）

第一圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二　對蘇作戰實行期の狀況

一、蘇聯參戰直前の狀況

イ、師團の戰力

イ砲兵部隊の火砲は全部支那より追及しあらず

ロ輜重部隊の自動車及輜重車の半數追及しあらず

ハ彈藥は携行彈藥のみにて補給を受けあらず

ニ築城材料支給の命は受けたるも未受領

ホ對支作戰のみに經驗を有し優良裝備の敵に對する訓練は不充分なり

二、蘇聯參戰當時の狀況

師團長は八月九日朝通溝附近の陣地偵察中蘇聯開戰のニュースを酒舍のラヂヲにて承知し直ち師團司令部に向ひ歸還す。途中朝陽鎮にて正午頃左の要旨の第三方面軍命令を受領す。

(一)方面軍は敵を連京線一帶に邀擊せんとす

(二)第三十九師團は一部を新京に派遣し該地區防衛司令官の指揮下に

0513

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

入らしめ主力を以て四平一部を以て公主嶺、開原に位置し敵を邀撃すべし

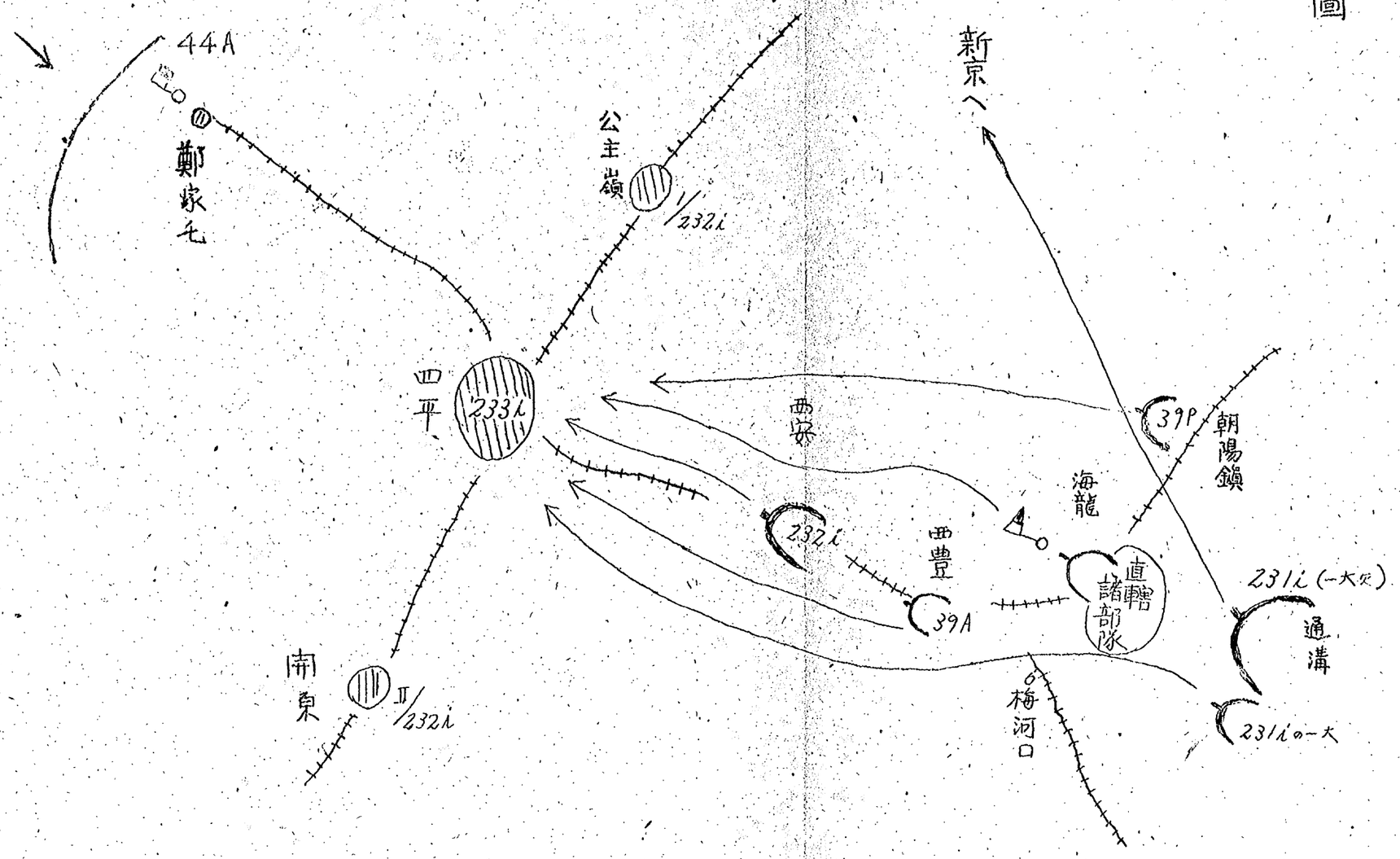
(二)当分第三十軍司令官の指揮下に復歸すべし

右軍命令に基き直に左記第二圖の如く諸隊に集中を命ず。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十九師團集中部署要圖

第二圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦後の行動概要

八月十日〇七、〇〇頃左の要旨の軍命令に接す。

「第三十九師團は行動を停止し現態勢にて後命を待つべし」

師團長は軍企圖の變更を察知し參謀を軍司令部に派遣す。參謀は軍參謀長より大要左の如き情況を承知し司令部に歸還す

「關東軍總司令官の意圖は白頭山系に於て防勢を採るにあるもの の如し、然るに連京線沿線地區に邀撃せんとするは方面軍司令官の獨斷に出てたるものの如く軍は取り敢えず隷下兵團の行動を現態勢に停止せしめ方面軍司令官の意圖を再確認せんとするものなり」

依つて師團は各部隊の行動を停止せしむ。

2. 次いで十日一二、〇〇頃左の要旨の第三十軍命令を受領す。

(一) 軍は主力を以て新京防衛に任ずると共に連京線沿線地區に於て果敢なる遊撃戰を企圖す

0516

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

㈡第三十九師團は新京に向ひ前進すべし

各一部を以て公主嶺、四平、開原周邊に於て敵を遊撃すべし

㈢自今余は新京に位置す

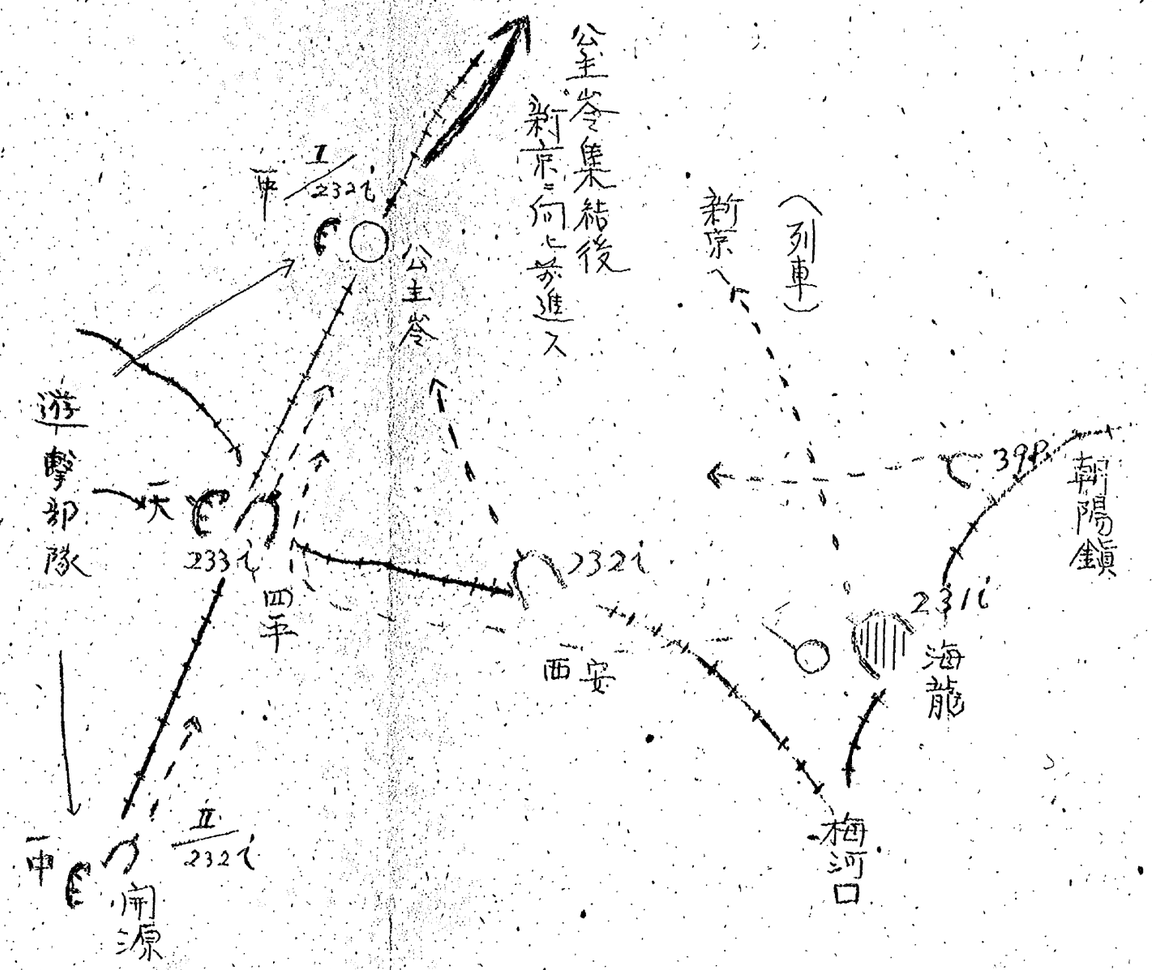
師團長は列車輸送の至難を顧慮し23/1のみ汽車輸送に依り新京に向はしめ、爾余の主力は行軍を以て公主嶺に集結し新京に向ひ前進すべく決す。之が為参謀を西安、四平に急派し兵力集結を指導せしむ。

師團の新京に向ふ兵力部署の要旨は左記第三圖の如し。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三図

師団兵力配置概略図（八月十日 十四時頃）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

先遣參謀は十日夕刻西安（2321）の位置に到着し、2321は既に一日行程四平に向ひ前進しありたるも先の停止命令に依り聯隊長は獨斷西安に向ひ逆行しつゝある狀況を知る（聯隊長は停止命令に依り狀況の變化を察し師團は海龍附近に集結するものと判斷せり）。依つて參謀は西安驛長と協議し石炭輸送列車を軍隊輸送用に使用するに決し、西安副縣長は荷車五〇〇台を準備しらしめ、西安驛長は部下を督勵して石炭の卸下を強行す。副縣長及西安驛長の獻身的活躍は將兵を深く感激せしめたり。

次いで先遣參謀は十一日一〇、〇〇頃四平着。正午過停車場司令官より第三十九師團主力は四平に停止すべき旨通報あり。軍司令部との連絡困難なりしを以て方面軍司令部に連絡し之を確認す。依つて左の如く處置せり。

（一）2311は一大隊を四平に殿置し主力は新京に向ひ前進せしむ（同日夕刻四平發）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ) 2321は四平にて下車

(ハ) 2321のII、IIは公主嶺、開原に位置し激襲準備

(ニ) 2331は四平後方山系に陣地構築及激襲準備

(ホ) 師團長に報告（翌朝四平到着迄報告通達せず）

同日夕刻派遣參謀は四平省公署に於て四平省次長と會見し左の如く協定す。

(イ) 省は全面的に師團の指示に基き行動す

(ロ) 省は取り敢えず左の處置を爲す

イ 糧秣の確保及之が輸送

ロ 陣地構築作業隊の編成（四平省土木局長指揮五〇〇〇名編成）

ハ 作井隊の編成

ニ 遼河と連京線の中間地區に於て交通網の遮斷準備（橋梁等の破壞準備）

ホ 輸送部隊（馬匹一五、〇〇〇台）の編成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヘ警察部長は遼河の線に出で情報收集並に游擊戰展開

ト省に於て情報收集の組織化

省次長は今や滿洲國官吏にあらず日本軍の一員として獻身する旨を嚴肅に誓約し特に糧秣確保、集結及一般輸送は全責任を負ふ旨を申出でたり。尙省次長より鄭家屯の軍司令部（第四十四軍）は既に奉天に後退せる由を承知す。

3. 八月十二日朝師團長は四平に到着し各團隊長を集合せしめ第四圖の如く陣地を四平東方山地帶に編成すべき旨を示し、夫々陣地一地形一を偵察せしめ又鄭家屯遼河の橋梁破壞を準備す。

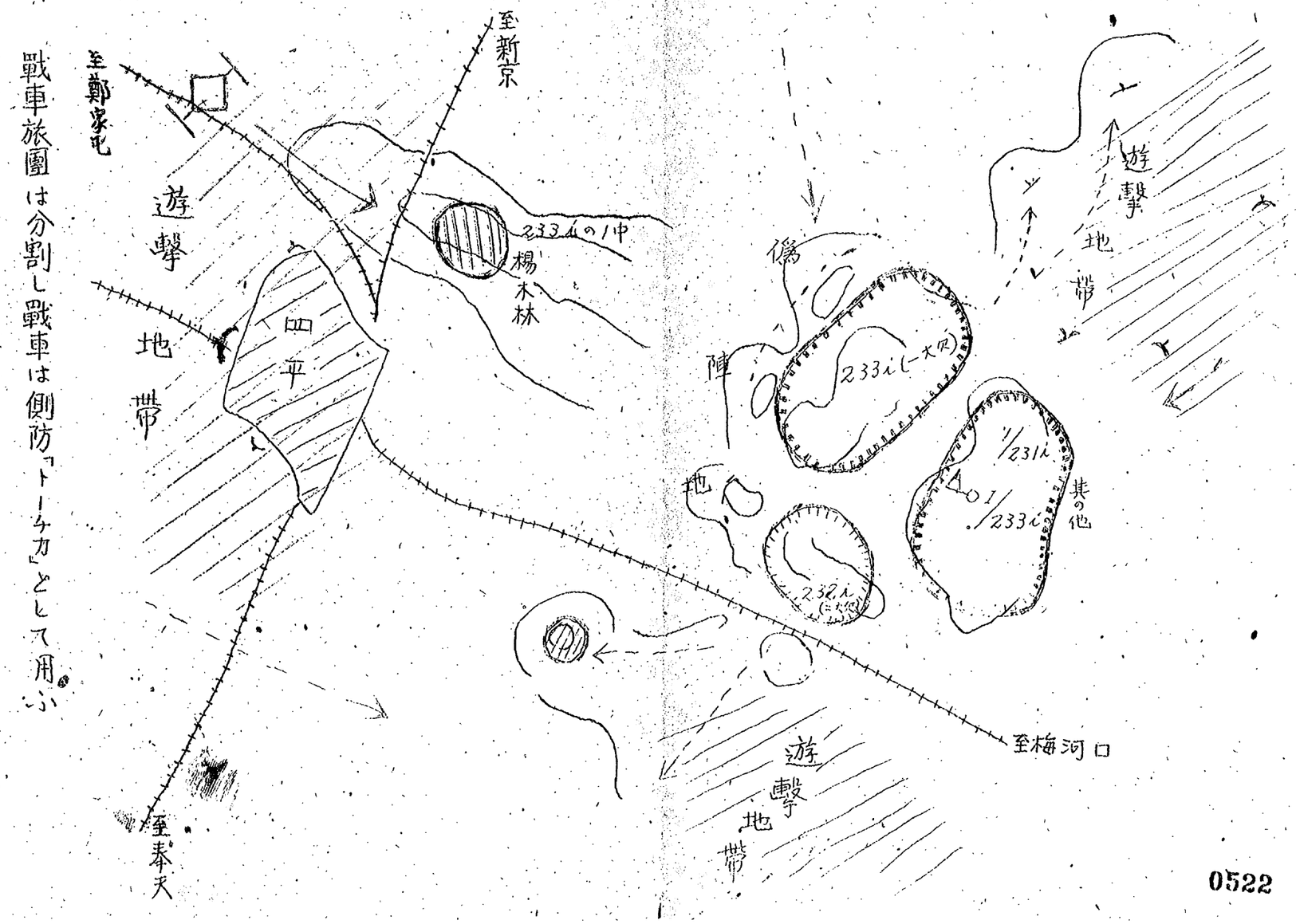
軍命令に依り在四平諸部隊を指揮す。戰鬪部隊としては戰車旅團一他は後方諸部隊にして指揮單位二十數部隊なり（師團各部隊を除く）。

0521

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四圖

四平東方山地帶に於ける第三十九師團陣地編成要圖



戰車旅團は分割し戰車は側防「トーチカ」として用ふ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

4. 八月十三日鄭家屯鐵道橋梁を爆破す。第一回爆撃に依る破壊は不十分にして39pを以て再度爆破す。

八月十四日遼河連京線中間地區交通遮斷の爆破準備を完了せる旨省より連絡あり（停戦に依り遂に實施せず）

5. 八月十四日四平飛行場に我飛行機二十數機到着し白城子附近の敵機甲部隊を攻撃す。

第三、終戦時の狀況

1. 八月十五日停戦の放送に接し左の師團命令を發す。

「師團は軍の正式命令ある迄戦闘行動を續行す」

師團長は自今居留民の保護に萬全を期すべき意圖を明示し左の如く處置す。

(一) 西安、西豐に夫々歩兵一個中隊を派遣す

(二) 各部隊に現地居留民の保護を重視すべく命ず

(三) 四平に於ては小哨及巡察を強化し狀況に依り將校を主体とし數

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

名宛民家直接宿泊警戒をなさしむ

2. 八月十六日參謀を第三十軍司令部に出頭せしめ軍旗奉燒、及武器交付、部隊集結に關する命令を受領し即日歸還す。

3. 蘇軍進駐前日（八月二十三日）蘇軍は鄭家屯方向より東進中の情報逐次到着しありしが四平郊外に到着せる日軍旗奉燒の命令を發し、之が訓示を為す。一般居留民各種團隊の集合せるもの多數なり。訓示終了後四平郊外楊樹林に於て歩兵第二百三十二聯隊及歩兵第二三三聯隊軍旗を師團長立會の下に各聯隊長奉燒す。

4. 蘇軍進駐第一日（八月二十四日）

陸軍機械化部隊約五〇〇（但し車輛は鄭家屯橋梁破壞の爲殘置しあり）は前夜四平郊外に達す。依つて師團は軍使を派遣せるに三時間内に在四平部隊一切の武器彈藥の交付を要求し其の不可能なる場合は明朝より攻擊を開始する旨を述べたるを以てその不可能なる旨を答ふ。翌朝蘇軍指揮官たる中佐司令部に出頭したるを以

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

て武器交付の爲最小限二日を要す旨を述ぶれば其の必要なし、一個列車を準備すべきを要求し、同日夕刻列車にて奉天方向に南下せり。

5. 蘇軍進駐第二日（八月二十五日）

公主嶺方面より早朝蘇軍部隊列車にて到着四平に下車す。兵力約一〇〇〇名にして戰車、裝甲車各十數輛、自動車約二〇輛を有し此日四平に宿營す。四平飛行場に軍使到着す。蘇軍航空兵大佐及少佐なり。依つて四平市驛にて之と會見し左の如く協定す。

(一) 治安維持の爲日本軍は當分四平市内に駐在し携帶兵器として機關銃以下の兵器を所有し得其の數は明日四平の情況視察の上蘇軍に於て決定す

(二) 進駐蘇軍の軍紀維持に關しては蘇軍に於て責任を以て任ず

(三) 兵器彈藥は明日以後速かに四平飛行場に集結交付すること

（二日間の豫定）

0525

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(四)四平警備隊長として蘇軍大尉を任命し、治安維持に關しては警備隊長と交渉すること、警備隊長は本夜日本軍警護と同車し治安維持の爲市内を巡回すること、(實施せるも特別の非行を發見し得ず略ぼ平穏なり)

夜半四平飛行場に蘇軍中將(師團長?)及幕僚到着し直に日本軍師團長宿舍に來り左の如く要求す。

(一)武器彈藥一切を明日四平飛行場に集結交付すべきこと

(二)在四平部隊及開原、西豐、西安部隊を集結し移動を許さず

(三)居留民の保護に關しては蘇軍に於て其の責に任ず但し師團司令部は若干の兵器の携帶を認む、

尋に蘇軍航空兵大佐と協定せる事項は全然價値を有せざりき。

6. 蘇軍進駐第三日(八月二十六日)

四平飛行場に於ける武器彈藥の集積は豫定の如く進捗せず。

7. 蘇軍進駐第五日(八月二十八日)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

武器彈薬の交付を終了す。

師團長は關東軍將官會議出席の爲四平を出發（蘇軍よりの指示）

8. 蘇軍進駐第六日（八月二十九日）

戰車及飛行機（練習機程度）を爆破す。

車輛兵器類は逐次列車にて新京方面に輸送を開始す。

9. 蘇軍進駐第七日（八月三十日）

蘇軍軍司令官中將四平飛行場に到着し爾後の折衝は蘇軍參謀長（ソコロフ大佐）と行ふことゝなれり。蘇側より日本軍は師團司令部を除き他は一切楊木林に集結すべく要求す。

10. 蘇軍進駐第八乃至第十日（八月三十一日ー九月二日）

各部隊の楊木林集結を實施す。

11. 蘇軍進駐第十二日十三日（九月四日、五日）

作業隊の編成を要求せられ鐵道復舊を名として逐次新京方向へ輸送せらる。隊長は大尉若しくは少佐とし兵員約一三〇〇ー一五〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〇名を以て一隊を編成す。再三の交渉に依り大佐も長として出發を得ることとなれり。四平より編成せる作業隊は總數十六隊なり。

12. 十月中旬

將校殘餘（約六〇〇名）は新京に向ふ。四平に殘留せる部隊は病院關係のみなり。

五、歩兵第二三一聯隊の戰鬪

新京に派遣せる23.11（長福永大佐）は八月十九日夕新京發列車にて公主嶺に向ふ。夜半公主嶺新京中間地區に於て不意に機關砲の射擊を受け機關車破壞す。聯隊長は滿軍の叛亂部隊と判斷し之と交戰す（新京に於て滿軍の叛亂せるを以てなり）。拂曉前蘇軍なることを知り、軍旗を奉燒したる後戰鬪を停止す。我損害十數名なり。聯隊長及將校數名は直に拉置せられ八面通方面に向ひたるものゝ如く、部隊は公主嶺に到著せり（脫出せる下士官の報告に依る）。

第四　其の他の狀況

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1. 四平省公署の情況

省次長以下獻身的奮鬪は前述せる如く特筆すべきものありたり。四平省長は停戰後四平市内に潛伏し、居留民保護の爲活躍を依頼せるも應ぜず、鄉里に身を潛めたり。

2. 居留民の狀況

停戰と同時に四平に避難民殺到し民心極めて動搖せる期間に右往左往せるを以て滿人に依る迫害相當ありたる模樣なるも四平市内は極めて平靜なり。鮮人は滿人の恨みを相當受けありしを爲か相當迫害せられたる模樣なり。

3. 滿人の動向

動亂に乘じ貨物廠に數十名襲撃せることありしも、電流鐵條網と警備兵一日蘇兩軍一の爲撃退せらる。又蘇軍の兵士數名を伴ひ倉庫を襲撃し我が方數名の損害を出せる事件あり。

第三節　第百四十八師團の狀況

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一、開戦前の状況（作戦準備）

一、關東軍作戦計畫に於ける師團の任務

當初關東軍の作戦計畫に於ては師團は新京附近に於て輕戰の後逐次通化省梅河口附近に移動する如く定められありたり。然れども開戦直後其の計畫を變更せられ新京死守の命令を受くるに至れり。

二、動員、編成、裝備

1. 師團司令部の編成

從來新京に位置せる第一〇一警備司令部の將校下士官の大部を師團司令部要員として充用し編成せられたり。

師團長中將末光元廣は六月中旬着任す

2. 七月上旬より在滿部隊の轉屬者逐次師團の基幹要員として轉入し來る。

3. 動員第一日は七月二十五日、完結は八月五日なり。應召者の大部は新京地區、一部は奉天、哈爾賓等より召集せられたり。尚鮮系

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

約七、八十名を含有せり。

4. 動員完結時に於ける師團の編成、裝備の概要別表第一、第二の如し。師團定員は人員一二、〇〇〇名なり。

5. 師團司令部は駐屯地司令部（舊第一〇一警備司令部）に、各部隊は動員間並に完結後も各學校（建國大學、工業大學、法政大學、新京第一、第二中學校、白菊小學校等）に宿營せしめ編制、裝備の充實並に團結の強化を圖りたり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別表第一

第一四八師團編成表

昭二〇、八、五

區分	職名	階級	氏名	摘要
師團司令部	師團長	中將	末光元廣	一、師團司令部編制定員概ね二二〇名
	參謀長	大佐	坂元昵	
	參謀	中佐	丸岡茂雄	
	〃	少佐	岩佐義忠	二、師團定員
	高級副官	少佐	高田登	人員 一二〇〇〇名
	經理部長	中佐	寺内一男	
	兵器部長	大尉	澤（代）？	
	軍醫部長	大佐	佐澤直	
	獸醫部長	少佐	今中貞雄	
	勤務中隊	中尉	山口寅雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

區分	部隊名	隊長の階級	氏名	摘要
各部隊	歩三八三	大佐	鈴元親三、千	
	歩三八四	少佐	坂田英	
	歩三八五	少佐	加賀田作	
	通信隊	少佐	有賀正考	
	挺進大隊	大尉	運田誠	
	砲兵一四八	中佐	武田久米彦	
	工兵一四八	少佐	横田次郎	
	輜重一四八	少佐	早川吉五郎	
	兵器勤務隊	大尉	海田貫一	
	病馬廠	中尉	細川？	

備考

一、師團には野戰病院を有せず

二、（代）は代理を示す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別表第二

第一四八師團裝備の概要

種別	充足率	概要
人員	90%	一、人員は概ね充足せり但し關東軍最後の動員にして鮮系あり、又一般に素質劣弱なり
馬匹	25%	一、乘馬は一部良好なるもの配當せられたり
車輛	30%	
小銃	30%	相當數を各大（中）學校教練用のものより引上げ充用せり
輕機	10%	
重機	10%	
大隊砲	5%	
火砲	20%	三八野砲數（内10H（一）15H（一）計八）其他は哈爾賓より輸送請求中停戦となる
通信器材	01%	電々會社より僅かに一部蒐集せしのみ
工兵器材	2%	土工用器材若干
被服	30%	應召者入隊時の儀の服裝（協和服、青年服等）相當多かりき
裝具	10%	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、教育訓練

1. 七月中旬第三方面軍司令部に於て各部隊長並に主任幕僚の會同行はれたり。方面軍司令官の訓示に於て特に強調せられたる事項左の如し。

(一) 教育訓練の目標は九月末迄に概成を期すること。

(二) 對戰車戰鬪を重視し特に肉迫攻擊の要領を徹底せしむること。

2. 各部隊は一應動員完結せられたりと雖も、編制、裝備極めて劣弱にして又連日雜役に追はれ教育訓練の實施は極めて困難なりき。小銃並に銃劍不足のため僅五千本を注文したるも停戰時迄遂に間に合はざりき。

3. 八月七日より約一週間の豫定を以て奉天に於て幹部に對する築城教育開始せられたるも開戰と共に中止せられたり。

四、新京特別市防禦計畫

新京周邊地區を主陣地線とし堅固に防禦陣地を占領する方針の下に

0535

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

防禦の骨幹は軍自らその他は軍の指示に基き市公署指導の下に軍官民一体となり陣地を構築する如く豫め研究せられたり。

但し開戦に至る迄具体的に工事に着手するに至らず。その原因の第一は第三方面軍と師團との主陣地前縁に關し意見の相異ありて第一四八師團長は新京地區の地形と師團獨力なる實情に鑑み市街地周邊近くに陣地前縁を設くるの要を力説せるも方面軍に於ては前縁を更に前方に出すを要すとの意見にて師團の防禦方針不確定なりしことなり。

その第二は戦局の推移極めて重大なるに拘らず市民一般の空氣は極めて低調にして机上計畫に日子を徒費し些細の準備事項に關しても熱意乏しきもの尠からざりしことなり。

第二　開戦時に於ける狀況

一、師團司令部

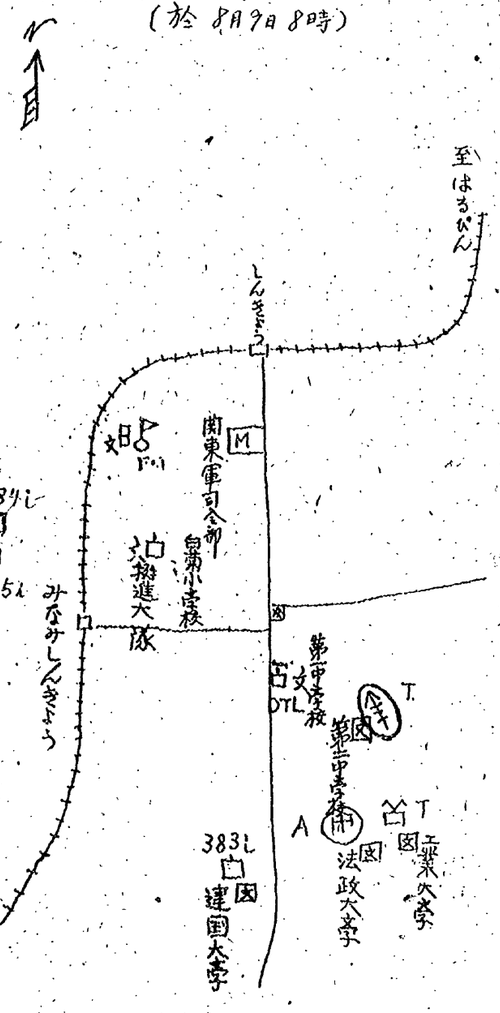
師團長及參謀長は新京師團司令部に在り。作戦主任參謀並に參謀部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附大尉一名は奉天第三方面軍司令部との連絡並に築城教育參加の為八月六日以降出張不在なり。後方主任參謀は部隊司令部に着任直後なり。

當時に於ける麾下各部隊の配置要圖左の如し

開戰時に於ける部隊の位置要圖
（於 8月9日 8時）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團の指揮下に在りたる日滿兩軍部隊左の如し

1. 新京滿軍第四高射砲隊（一大隊欠）は防空の爲從來第一〇一警備司令官（中部防衛司令官）の指揮下に置せられありしが第一四八師團編成せられ師團長が第一〇一警備司令官の任務を繼承せるに伴ひ師團の指揮下に入りたり。

2. 豐滿ダム（吉林上流松花江發電所）防空の爲配置せられありし滿軍第四高射砲隊の一大隊及日本軍野戰機關砲二中隊及奉天より公主嶺に移駐せる滿洲航空會社の防空に任しありたる滿軍高射砲一箇中隊は何れも師團長の指揮下に在り。

第三、作戰經過の概要

1. 八月九日〇二〇〇前後日蘇開戰を知り師團長は警戒警報を中部全地區に對し發令、間もなく敵機飛來せしも燈火管制徹底し市内に一發燃彈を投下せしも人畜に被害なし。

2. 次いで各部隊に對し豫め計畫せる所に從ひ陣地占領を命ず。下達

0538

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

せる命令の要旨左の如し。

第一四八師團命令の要旨　八、九、〇〇八〇〇

於　師團司令部

一、蘇軍は八月九日未明滿蘇國境全線に亘り滿内に向ひ進攻を開始せり

本朝〇三〇〇新京は少數敵機の空襲を受けたるも被害なし

二、師團は全力を以て新京特別市周邊地區を堅固に占領し進攻する敵を擊破せんとす在京滿軍諸部隊を併せ指揮す

三、歩兵第三八三聯隊は西地區隊となり直接新京西側地區に陣地を占領し該方面より進攻する敵を擊破すへし

四、歩兵第三八四聯隊は北地區隊となり直接新京北側前縁附近に陣地を占領し該方面より進攻する敵を擊破すへし

五、歩兵第三八五聯隊は中地區隊となり市公署附近一帶を陣地の複郭たらしむる如く陣地を占領し第一線を濾過し來る敵を擊破すへし

0539

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、野砲兵第一四八聯隊長は工兵隊の一部を併せ指揮し南地區隊となり南方より進攻する敵を擊破すへし火砲は主として北方及ひ西方より突進する敵戰車に對し適時射擊し得る如く準備すへし

七、滿軍（軍官學校、禁衛隊）は東地區隊となり市街東側附近に陣地を占領し該方面より進攻する敵を擊破すへし

八、各地區隊の戰鬪地域の境界は別に指示す

九、挺進大隊は主力を以て農安方向に一部を以て伏隆泉方向に挺進し敵戰車を奇襲すへし特に有力なる一部を以て知順鳥附近（新京西北方約三五粁）伊通河湖沼地帶の氾濫を實施すへし之か爲特に當該副縣長並に街長を指導すへし糧秣約二週間分を携行すへし、出發時機は別命す

十、工兵隊（一部欠）は主として北、西、中地區隊の重點支撐點構築並に主要障碍物構築に協力すへし

十一、師團輜重隊通信隊は速に器材を蒐集整備し師團司令部と各地區隊

0540

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内の電話網構成すべし

十三、輜重兵第一四八聯隊は先つ北、西、地區隊次て中、南地區隊に對する彈藥及糧秣の補給に任すべし

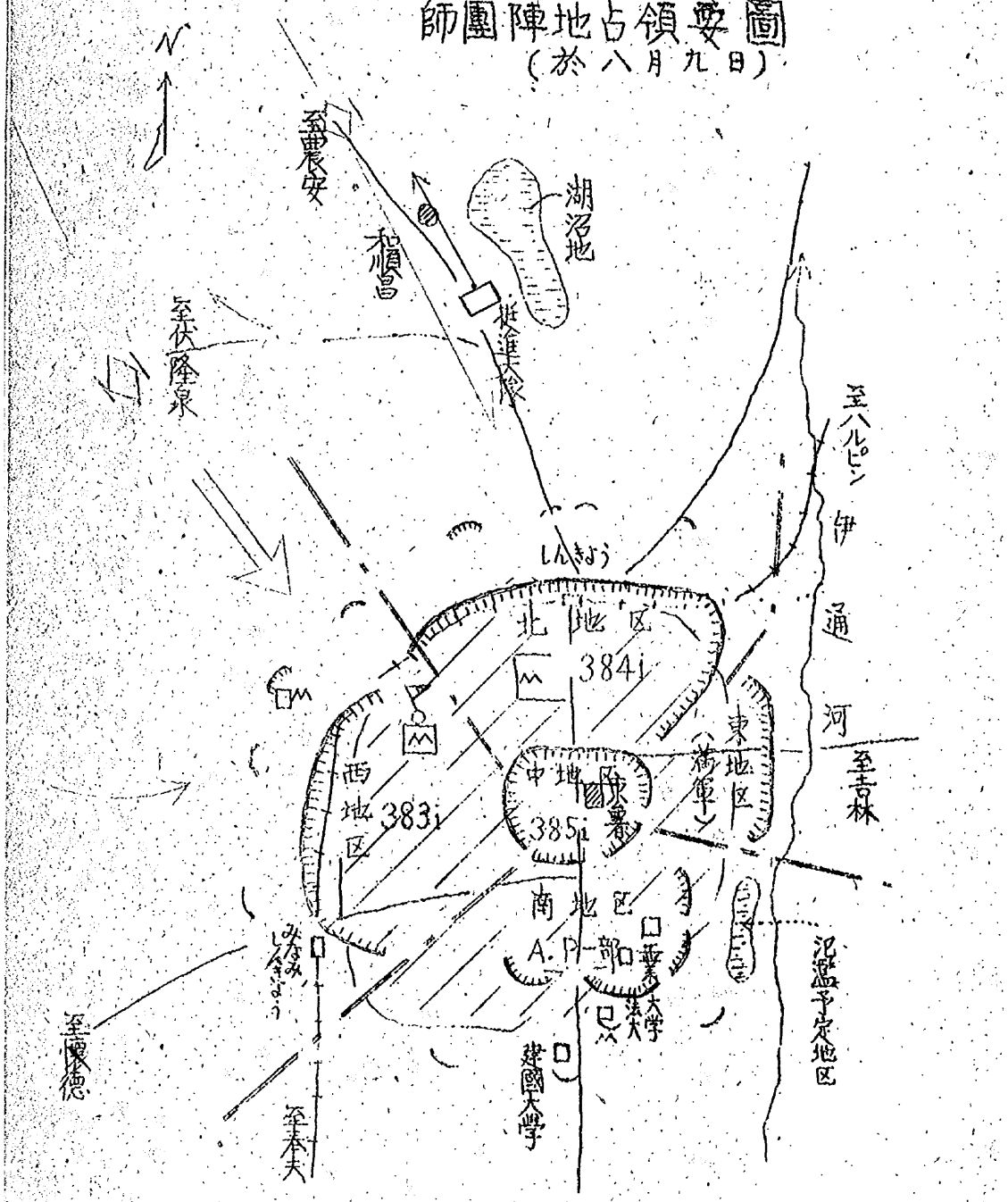
師團長　中將　末光元廣

右命令に基く陣地配備左記要圖左の如し

0541

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團陣地占領要圖
（於八月九日）



0542

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3. 丸岡參謀は八月七日より第三方面軍司令部に出張中なりしも開戰と共に打合せ並に幹部に對する築城教育中止となるや歸任の途に就き、途中九日一五、〇〇頃四平に於て列車停車中電報により在梅河口第三十軍司令部に命令受領に赴くべき命を受け翌十日〇七〇〇四平發梅河口に到れり。當時第三十軍司令部は梅河口驛前梅ノ屋ホテルに在り。

十日夕左記要旨の第三十軍命令を受領す。

(一)第三方面軍正面敵機甲部隊は敷縦隊となり國境を突破して東進中にして早ければ十三日頃連京線沿線地區に進出すべし

東部國境に於ては九日已に國境陣地を突破せられ敵は綏陽、琿春に進出す。一部の敵機甲部隊は牡丹江に向ひ突進中其の他全面的に敵は國境を突破侵入せるも通信杜絶しあるため狀況不明なり

(二)軍は新京及四平を確保し侵攻する敵を擊破せんとす

0543

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

㈢第一四八師團は新京特別市を確保し侵攻する敵を撃破すへし

㈣第三九師團は四平東側高地を確保し侵攻する敵を撃破すへし

㈤第二二五師團は梅河口周邊地區に前進し爾後の行動を準備すへし

以下省略

4. 十一日早朝丸岡參謀は軍參謀吉川大佐と共に梅河口より新京に向ふ。途中滿鐵線は新京地區疎開者の全力輸送中にして又新京驛構内は列車輻湊の爲新京迄前進し能はず已むなく孟家屯に下車し十一日二四、〇〇師團司令部に歸任せり。

十一日關東軍測量隊、山口大佐以下三〇〇名（軍屬を含む）を師團に配屬せらる。

5. 十二日新京附近召集者約三、〇〇〇名を新に師團に增加せられたるも兵器、被服不足なるのみならず地方色極めて濃厚にして之れが掌握は極めて困難なり。同日朝第三十軍司令官飯田中將並參謀

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

長以下新京に到着、戰鬪司令所を關東軍總司令部廳舍に開設せり

第三十軍は當時決戰の目的を以て全力を新京に集結せしむる意向なりしも其后之れを變更し新京、四平を確保し來攻する敵を擊破するに決せられたり。

6. 師團は軍の新なる企圖に基き八月十三日朝左の要旨の陣地變更に關する命令を下達せり

一、敵の前進速度は逐次低調となり新京特別市正面に現出するは早くも十五日頃なるへし軍は主力を以て新京特別市を確保し來攻する敵を擊破す

二、師團は新京地區兵力の增強に伴ひ速に配備を變更强化し來攻する敵を擊破せんとす

新に師團に左記部隊を配屬せしめらる

戰車第三十五聯隊

新京高射砲隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

高射砲第二十六聯隊

在新京補給諸廠

陸軍病院の殘留者

滿軍禁衛隊、軍官學校生徒隊

新京南側地區は新に獨立混成第一三三旅團陣地を占領する筈

三、挺進大隊は爨に示せる任務を敢行すべし出發は本夕刻とす

四、西地區隊は前任務を續行すべし

五、中地區隊は爾今北地區隊となり新京北側地區を占領すべし

六、北地區隊は爾今中地區隊とす

七、東地區隊は北（中）地區隊の陣地續東に伴ひ所要の陣地を修正すべし

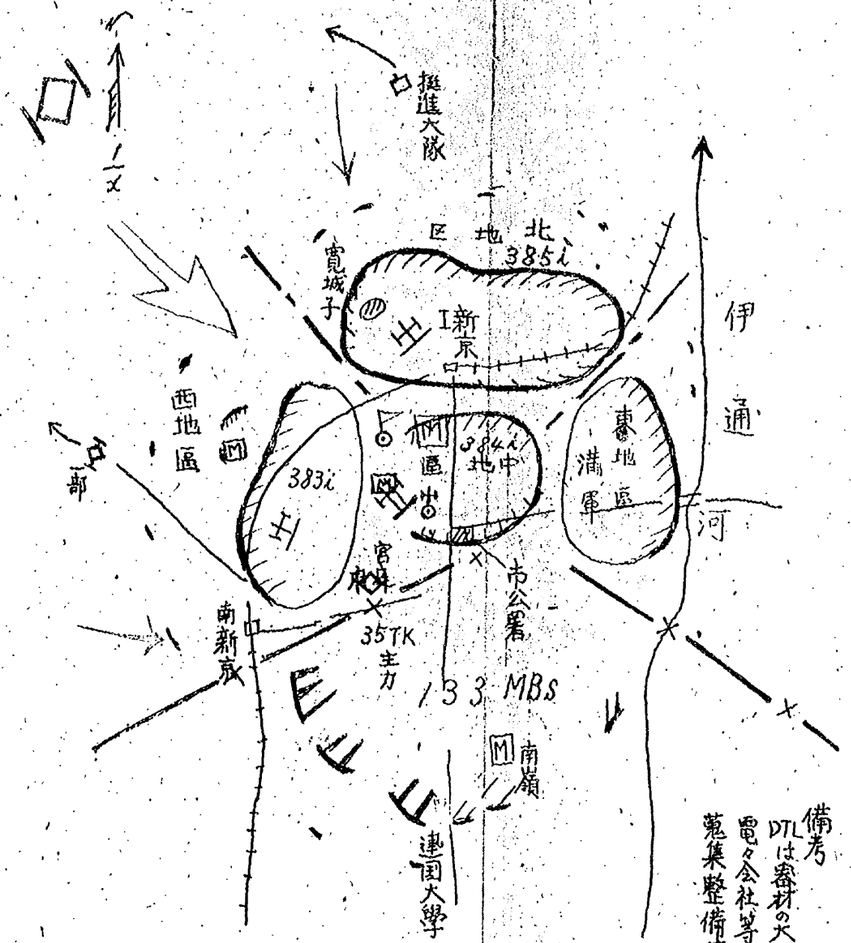
八、各地區隊の戰鬪地域の境界は別命す

九、野砲兵第一四八聯隊は市街地區內西北地區に陣地を占領し主力を以て西地區隊に一部を以て北地區隊の戰鬪に協力すべし

0546

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團配備要更要圖
(於八月十三日午前)



特に適時對戰車戰鬪に任すべし

一〇戰車第三十五聯隊は綠園附近に待機對戰車戰鬪を準備すべし。
特に一部を以て懷德及農安方面の敵機甲部隊の狀況を偵察すべし

二、其の他省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7.八月十二日午後一大隊（遼陽下士官候補者隊一原隊復歸至難のため新京に下車し軍より師團に配屬すべき旨命あり同隊は一時控置せり

8.師團は陣地の強化を圖ると共に一部を以て裝備の充實を圖るため兵器、被服の蒐集に努む。之れが爲陣地構築に禦せんとし甚大なり。又十二日夜白城子部隊との電話連絡の結果左記情況を知るを得たり

左記

第一〇七師團は五叉溝附近に於て優勢なる敵と交戰中にして敵は遂次西北方より進略を寸斷しつゝあり

第一一七師團は後退中なるも白城子守備部隊は依然健在陣地を確保しあり

9.十三日夕滿洲國政府側より得たる情報に依れば日本内地に於ては停戰交渉を進めある模様なりしも師團は依然任務を續行す

五三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

10. 中支方面より轉進せる獨立工兵第四〇大隊の一中隊十三日新京に到着し師團に配屬せられしを以て師團は該中隊を工兵第一四八聯隊に配屬せり。

（右中隊は大隊主力と共に奉天に集結せらるべき部隊なりしも誤りて新京へ輸送せられたるものなり）

11. 十四日午前第三十軍命令により停戦命令を下達せしも間もなく取消しの命あり依然作戦行動を行ふべき命令を下達す。然れども一般情勢は遂に志氣揚らず工事等に熱意なし。

十四日午后滿軍方面に背叛の氣運濃厚となり監視を嚴にす。伊通河方面に於て突如日系軍官滿系に射殺せらるゝの報あり。

12. 十五日歩兵第三八四聯隊、歩兵第三八五聯隊の各々半個小隊は一部背叛せる滿軍鎮壓に向ひ彼我の間に小戦を惹起し一部滿軍の武裝解除を實施せしも我に戦死一二、負傷十數名を出すに至れり。

關東軍參謀入江少佐、第三十軍參謀山岸少佐、軍直の外側に搭乘狀

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

況視察のため滿軍陣地内前進中突如屋上より狙撃せられ戰死す。
市街戰は緩慢なりしも繼續せられ十六日參謀長坂元大佐滿軍との折衝により滿軍は伊通河東側地區に集結することゝなり銃聲は全く止みたり。

第四　終戰後に於ける狀況

1. 十五日新京應召者約三、〇〇〇名を召集解除す。
2. 十六日第一一七師團の一梯團（約五、〇〇〇名）の一列車新京着師團に配屬せらる
3. 第三十軍司令部、獨立混成第一三三旅團及戰車第三十五聯隊は十八日朝公主嶺に移動を開始す
4. 十八日在新京各部隊は蘇軍進駐前に終戰後の處置（機密書類の燒却等）を速に完了すべき要に迫られ終日之れが實施に忙殺せらる。
又特に遺憾なりしは臨時配屬せられたる後方部隊（在新京補給諸廠等）は師團の指揮下に在るに拘らず獨斷且過早に燃料、兵器、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

被服等の焼却を實施せり。

5. 十九日夜敵機甲部隊の先頭連京線に達し范家屯に於て公主嶺への轉進部隊と交戦するに至り第三十九師團の歩兵一箇聯隊の主力は懐德方面に拉致せらる。

白城子方面より逐次小部隊新京に到着師團に收容せらる。

北方方面より邦人避難民の列車逐次到着し爲に新京市内は騒然たり。加ふるに十五日終戦以來滿鮮系の邦人住宅侵入激増し治安漸く亂る。

6. 十九日正午頃蘇軍軍使空路新京着師團司令部に入る。蘇側は在京部隊の全員武裝解除を命じたるも折衝の結果居留民保護、治安維持の目的を以て約一、〇〇〇名（小銃のみ）並に師團司令部のみ内に殘留し諸般の折衝、連絡並に治安維持に任ずることゝなれり

7. 二十二日頃蘇軍指令により前項治安維持の爲の兵力は撤收することゝなり師團主力の集結地區（新京南嶺附近）に集結し爾後は日

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿憲兵を市街要點に配備し治安維持に任ぜしめられたり。日滿警戒警備任境界は概ね新、舊兩市街道路の線となれり。特に不穩行動の中心は禁衛隊、憲兵團の共産系分子たり。軍官學校生徒隊は日滿生徒間の友情概ね良好にして終戰後團滿に解隊せり。又新京周邊地區の日本人開拓團（約十七箇團）は十六日乃至十八日の間何れも滿人の掠奪に遭ひ死傷者續出し日本軍の救援を求むるに至り師團は一部を派遣して之れが救出に任ぜしめたり。

8. 八月下旬蘇軍の命により師團司令部及治安維持に任しありし憲兵は凡て師團主力の位置に集結せり。

師團司令部は師團長以下滿洲映畫會社（新京南端附近）に位置せり。

南嶺附近に集結せる在新京部隊人員は約二〇、〇〇〇人にして此れが統制を第一四八師團長（駐屯地司令官）に命ぜらる。爾後在新京部隊は九月上旬より遂次作業大隊に編成せられ入蘇すること

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

となれり。

第五　作業大隊の狀況（九月一日以降）

1. 九月一日第一、第二作業大隊の編成（各大隊一、〇〇〇名宛）を指令せらる。

右大隊の一箇大隊は二日早朝出發近傍の道路修理を實施したる後再び歸還し假收容所に待機せしめられたるを以て、爾後の作業大隊編成も概ね不安なく編成せられたるも、第三大隊編成以降入蘇輸送を慮れ將兵一般は動搖し逃亡者累增するに至れり。

2. 新京に於て編成せられたる作業大隊數は十五箇大隊（一、〇〇〇一五、〇〇〇名）宛なり（内二箇大隊は居留民部隊）。又別に將校二箇大隊を編成す。十一月十二日新京出發の將校大隊を最後とし作業大隊の入蘇輸送は終了せり。

當時（十一月十二日）新京假收容所には保健中隊（二箇中隊）と滿洲國日系官吏（高等官のみ）の一部隊殘留しありたり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp